

待望の「自分でお茶を点てる体験」に挑戦

日本語教室で茶道教室が開かれました

5月26日(月)、28日(水)、29日(木)に、日本語教室の学習者の希望者を対象に「茶道教室」が開かれました。

どの曜日も盛況でしたが、木曜日は15名の学習者が参加しました。会場は、日本語教室が行われているサンロードビル内にある茶室でした。

床の間もある立派な和室に、参加者は皆神妙な面もちでソロソロと入り、畳の上に行儀よく正座します。お茶を点てる「亭主」、亭主を補助する「半東」、主賓である「正客」を、和服姿の日本語ボランティア講師たちがつとめます。静かな時間の流れる中、茶釜の前に座って、ていねいにお茶を点てる亭主の凛としたたたずまいに、皆、「ほう～」と感心した様子です。

「あまり難しく考えずに、今日はお茶を楽しんで下さい」と、半東役のボランティアが参加者をリラックスさせます。一方で、「いただく前には隣の人に‘お先に’とあいさつします」「茶碗は2度回してからいただきます」など、随時、作法の基本を教えます。

全員がお茶をいただいた後は、お道具類の説明。そして最後は、待望の「自分でお茶を点てる体験」に挑戦。もちろん抹茶を茶筌でかき回すところだけのトライですが、各自一生懸命かつ楽しそうに取り組みます。点てたお茶は、隣の人と交換していただきます。「やっぱり先生の点てたお茶のほうがおいしいです」との感想に、皆大笑い。

「ちょっと足がしびれましたけれど、自分でお茶を点てるなんて初めての体験ができて楽しかったです」と、ジェシカ・ハギンズさん(アメリカ)。マキシム・アンドリケットさん(フランス)も、「お菓子を食べて、お茶をいただいて、道具類の話も聞いて。全体のプロセスが流れるようで、大変おもしろかったです。部屋もとてもきれいでしたし」と、満足げ。「お茶会は初めてでしたが、もともと抹茶は大好き。この間は、家で自分で抹茶アイスを作りました」と、レ・ティン・フィエンさん(ベトナム)。

おいしいお茶を通して日本文化をちょっと味わった楽しいひとときでした。

(報告 佐藤洋子)



床の間のある茶室で、畳の上に正座の参加者のみなさん



茶筌を使ってそれぞれ自分でお茶を点てました